

# 日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1  
TEL 03-3296-1001

## すばらしい喜びの知らせ

伝道団体連絡協議会副会長 滝元明

「恐れることはありません。今、私はこの民全体のため  
のすばらしい喜びを知らせに来たのです」ルカ二・一〇

主イエス・キリストのご誕生を、心からお祝い申しあげま  
す。

私が生まれたのは、愛知県の山の中で家が四軒しかない所  
でした。戦争が終わった年は、自転車のタイヤもないので、  
学校まで一年間、歩いて毎日二十四キロ通学しました。十七  
歳の時、東京に農業の学びに上京しました。

その年の十二月、私は生まれて初めてクリスマスなる言葉  
を意識しました。東京の有楽町にあった日本劇場にダンシン  
グチームのショーを見に行きました。当時、歌手の笠置シズ  
子が東京ブギブギを歌い、美しいダンサーが踊り、クリスマ  
スを祝っておりまして。ど田舎者の私はすごく感激して夢の  
世界に入った心持ちがしました。こんなすばらしいところ  
に是非とも連れてきてあげたい。私が今味わっている喜びを  
母に伝えたい。

十九歳の春、生まれて初めてキリスト教会の門をくぐった  
のです。そこで天の栄光の御座を捨てて、貧しい馬小屋にお  
生まれになった主イエスさまにお会いしたのです。一時の喜

びではなく、永遠の生命を十字架を見上げて受け取ったので  
す。永遠の生命が与えられましたが、信じなかったらどうな  
るか、イエスさまを信じない者は地獄に行く、このことが分  
かった時、最初に思ったことは田舎にいる父や母のことです  
た。両親が地獄に行ったらどうしよう。生まれた村、郡にも  
一つも教会がない、何とかして喜ばしい福音を両親に、村の  
人に伝えよう、こんな思いで伝道者となりました。

あれから四十三年の年月が流れました。父は死の直前に、  
母は八十二歳で救われ、九十一歳で天国に帰りました。その  
母が「明、おまえが兄弟の中で一番親孝行をしてくれた。天  
国に行く道を教えてくれた」と言ってくれました。十一人兄  
弟で九番目に生まれた私がイエスさまを信じて、両親を主の  
み救いの中に導かせていただいたことは、これ以上の喜びは  
ありません。

今、私の心の中にある願いは、日本のすべての友に主イエ  
スさまをお伝えしたいことです。一九九三年十一月には甲子園  
で、天からの大いなるリバイバルを見せていただき、多くの  
人々が主イエスさまを信じて、限り無い喜びに入れられるこ  
とが切なる祈りでもあります。

# 日本CCC

(日本キャンパス・クルセード)  
フォ・クライスト

〈事務所〉〒188 東京都田無市谷戸町3-11-9 長谷川ビル201

TEL 0424-2118990

FAX 0424-2118985

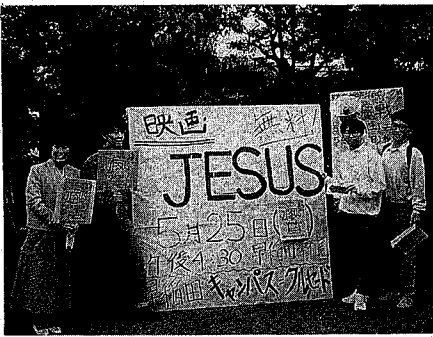
主イエス・キリストの大宣教命令を成就するため、日本CCCの働きが一九八四年、新たに開始されました。現在、首都圏東京、名古屋、大阪、沖縄でスタッフが存在して活動しております。

CCCでは、人をキリストに導き、霊的育成のための訓練を施し、さらにその人々を伝道と弟子訓練のために派遣するということを通し、日本中に福音が満たされることを目標にしています。現在、日本人スタッフ十五名と韓国・アメリカからのスタッフと共に国際的チームで働きを進めています。救霊・育成・訓練・派遣という働きの四本柱に沿って学内での伝道・弟子訓練定期集会(LTC)、教会での訓練会等を行っています。

国際的ネットワークを生かした種々のプロジェクトを行っているのも一つの特色で、今年も学生伝道のためシンガポールCCCから東京・名古屋・大阪に働き人が送られ、福音宣教に貢献させていただきました。

またこの夏は恒例となったサマーエクスプロージョンが名古屋にて持たれ約三百名の参加者が全国各地から集いました。講師は有賀喜一師の他、アーサー・ホーランドがクロスマーチのメンバーを連れて参加し大きなチャレンジの大会となりました。

祈りの課題としては、東京七十万以上の大学生に届くための霊的ムーブメントの基地としての学生センターを必要としております。お祈りに覚えていただければ幸いです。



# 全日本福音宣教会

〈事務所〉〒530 大阪府大阪市北区菅原町3-6 菅原町ビル3F

TEL 06-3665-7832

FAX 06-3665-7920

一九七九年ヨイド純福音教会の日本宣教会と、日本の委員会が協力して、まず一千万人の救いを目標に、この宣教活動がスタートしました。

具体的な活動方法は、テレビ、出版、聖会等を通して広範囲に福音伝道をしています。当初二局から始まったテレビ放映は、現在十局にまで広げられ出版物は十冊に、月刊新聞は毎月二万部以上が発行されています。祈りのパートナー約千名が一千万人の救いのため、毎日祈っています。

また働き人を養成するためACGI(アジア教会成長神学院)を東京と大阪で設立しました。本学院の特色は、教授陣に実際に教会が成長し続けている教会の牧会者を、超教派的にお迎えし、現場の生の体験から働き人を養成する点にあります。

今後はさらに、これらの活動を拡大充実させながら、身近で、日常生活に密着した教会のイメージを未信者の人々に伝えたいと願っております。

\* 放映中のテレビ局 千葉テレビ、テレビ埼玉、テレビ神奈川、KBS京都、テレビ瀬戸内、テレビ愛知、ティー・エックス・エヌ九州・琉球放送、テレビ和歌山  
(写真は「幸福への招待」)



# 日本国際飢餓対策機構

〈東京事務所〉〒164 東京都中野区本町5-10-5  
 TEL03-33383-7611  
 FAX03-33383-8771

現在世界では、公平に分配しさえすればすべての人を養って余りある食料が生産されています。にもかかわらず、「南」の国々では約二秒に一人が飢餓により死んでいるのです。これは、世界人口の一六%に過ぎない先進工業国の人々が過剰に食料を消費しているためにほかなりません。私たちの豊かさは世界の人々の犠牲と苦しみの上に成り立っているのです。

日本国際飢餓対策機構は、世界に広がる飢餓に 대응べく、アジア、アフリカ、中南米の十数か国で国際的な協力の下に、様々の援助活動を行い、霊肉両面の飢餓対策にあたっています。また国内においては啓蒙活動を行い、価値観と世界観の転換を訴えています。



現在、エチオピア、ケニアではツェツェバエ防除の働きのために、それぞれ野田浩正、神戸俊平の両獣医師が、バングラデシュでは保健衛生プロジェクトのために柳沢美登里スタッフが（保健衛生指導に当たる写真）が、タイでは現地プロジェクト・マネジメントのために中上幸スタッフが派遣されています。また、中国河南省洛寧県での竹工芸指導のため八木敬三氏が毎年現地を訪れています。

どうぞ日本のより多くの教会が、この最も弱い者に仕えていく働きに加わっていただけますようお願いください。また加えて、当機構の海外スタッフ一人一人が、イエス・キリストの香りを放つ働きを成していただけますようお願いいただければ幸いです。

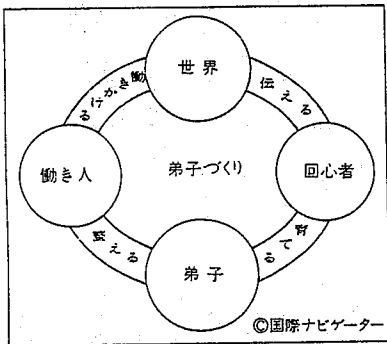
# 国際ナビゲーター

〈事務所〉〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC内  
 TEL03-3295-0146  
 FAX03-3219-2840

「今度はあなたがしてあげなさい！」  
 第二次大戦前、ある水兵の友人がキリストを受け入れた。その霊的指導を願った時、D・トロットマン（ナビゲーターの創設者）は彼に対して右のように答えました。一対一でキリストの弟子を育て、訓練するというナビゲーターの働きは、ここからはじまりました。

国際ナビゲーターの目的は、すべての国でキリストのための働き人を育て、訓練することです。それは、マタイ二八・一九にある「行って弟子とせよ」という偉大な宣教命令の成就の一翼を担うことです。

一九五一年に開始された日本での働きは、大学生を中心に東京を皮きりに全国の七地域へ拡大。今日の宣教の基礎が築かれました。また日本独自の精神土壌の影響にも耐え得るキリストの弟子の育成も目指され、みことばの原点に立ち帰って宣教の方法や哲学の吟味がなされました。こうした時期を経て、さらに日本全国さらにアジア



期を経て、さらに日本全国さらにアジアへ目を向けていきます。しかし、その中心は「収穫のための働き人」の育成であり、神の国の前進です。次のために、お祈りください。

- ① 祈りが宣教の中心
- ② 同労者との協力により宣教地の倍加
- ③ 九九%の日本人の福音受容の障壁の打破
- ④ ふさわしい聖書的交わりのかたちの追求
- ⑤ 地域教会の弟子造りの必要への奉仕
- ⑥ アジア宣教のための職業人による宣教

## 二泊研修懇談会開く

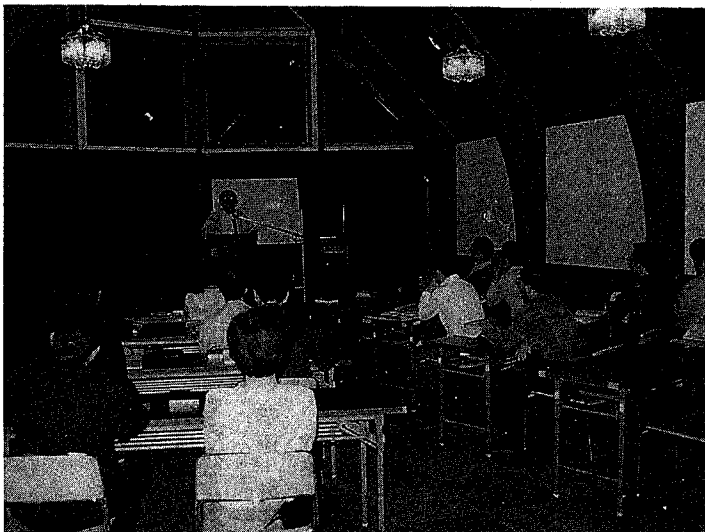
# 「未信者の心をいかにとらえるか」

講師に山口 昇師（J.E.A. 理事長）を迎え

一九九二年九月十七日、十九日、秋風の吹く軽井沢（恵みシャレー軽井沢）で二泊の研修懇談会を行いました。

講師にJ.E.A.の理事長で、日本文化に造詣の深い山口昇師を迎えて「未信者の心をいかにとらえるか」「教会と伝道団体」というテーマで三回にわたって語っていただき、有意義な学びの時となりました。

また同じ伝団協のメンバーですが、普段なかなか



かゆくくり交わることができませんが、今回バスツアー等を通してゆくり交わることができました。ただし、参加者が十五名と少なく残念でした。次回研修懇談会には、もっと多くの団体から多くの方々が参加していただきたいと願っています。

以下に、山口師がなぜ日本の文化——お茶、禅、書道、落語などに興味を持ち学んできたから話始め、確信に迫る講演から短く紹介します。

◇

「まず私がなぜ、日本文化とキリスト教を結びつけようとしているのかというと、IIコリント九・一九〜二三によっています。日本人に伝道するということは、日本人の心をとらえなければなりません。パウロは、伝道を熱心にしましたが、いろいろの問題にぶつかり、ユダヤ人にはユダヤ人のように、異邦人には異邦人のようにと、あらゆる人の波長に合わせると言っている。本来は自由な人だけれども、あらゆる人の奴隷になったと言わなければならない。自分の主体性のある程度犠牲にしても、相手のレベルに合わせて伝道しようとしたのです。神さまが与えてくださった文化とは何なのかということを考えるようになりました。神さまは、特別恩寵（信仰）一般恩寵（文化）を与えて下さっています。私が信仰を持った昭和二十三年頃は、信仰オンリーで一般恩寵は否定されていきました。

それはおかしいと、いろいろな事を勉強していくうちにだんだんわかってきました。日本文化の中にも神さまの恵みは働いているんじゃないかと分かってきました。未信者の人は、クリスチャンと違う世界に住んでいるのです。未信者は、救われてはいませんが、けして神さまの恩寵から見放されているわけではないのです。イテモテにあるように神さまはすべての人が救われて真理を知ること望んでいるのです。別々の世界があると考えると接点がないんです。接点が無かったら伝道出来ません。それではどうしたらいいかということです。

特別恩寵と一般恩寵が少しでも重なっているところがあればいいわけです。それでキリスト教が根本的に発想を変えて、特別恩寵と一般恩寵の重なりということを考えていかなければなりません。一般恩寵の側にいる人を何かの架け橋で特別恩寵につれて来ないと救いは完成しないわけです。私たちは、クリスチャンになって特別恩寵に生きているのですが、未信者の人と共通点をもつためには一般恩寵の勉強もしっかりしなくてはだめそうしないと彼らと共通の話題がない。それが禅とか書道とか落語も役に立つということが分かりました」

以下講演は、段々佳境に入りますが紙面の都合で割愛します。講演テープのお求めは、講演I〜III 各一七〇〇円（税別）、申込先・ペラビジョン（☎03・3294・9095）まで。

発行日 一九九二年十二月二十日  
発行者 本 田 弘 繁  
編集者 鈴 木 繁